

第1学年国語科「う～んと、こうしよう！みんなで読もう！紙芝居 ～『おおきなかぶ』～」

学習指導者 東 泰右 支援員 林 麻衣子

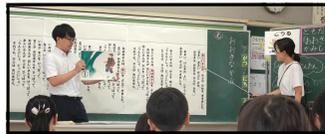
写真を基に、紙芝居の読み聞かせをしてもらった経験を想起できるようにしました。絵があることで場面の様子が伝わりやすく、これまでに経験した音読の工夫も生かせるという紙芝居のよさや、友達と協力する楽しさを共有した上で、「友達と一緒に、『おおきなかぶ』の紙芝居を発表しよう」という目標を設定しました。また、発表する相手も選択できるようにし、達成意欲を高めました。

『おおきなかぶ』の絵をどこでめくるとよいのかな

【見通し】

まず、単元の目標と、前時に見いだした「次にやりたいこと」を確認しました。その中の「絵をめくる場所を決める」に関して、教師と支援員による紙芝居のモデルを見て気付いたことを共有しました。モデルのようなめくり方では、絵と文章のまとまりが対応していないことに気づき、どこで絵をめくればよいか考える必要性を再確認して、課題を設定しました。

その後、ペア活動の手順と「友達の技（協働）」を使うよさを確認し、「読みの技（解決方法の手掛かり）」から使えるものを選んで活動の見通しをもちました。



【行動】

教科書の挿絵を基にした5枚の絵カードと本文シートを用いながら、絵をめくる場所についてペアで考えていきました。子供たちは、「ここでおばあさんが出てきているから、ここからが②番の絵じゃないかな」などと、絵と文をつなぎながら、絵をめくる場所を決めていきました。全体交流では、ペアで悩んだところについては、それぞれの考えを伝え合いました。話し合いの途中で悩んだ時には、実際に動作化を交えながら、絵と文のつながりについて考えていきました。



【振り返り・見通し】

今日使った「読みの技」と「友達の技」を振り返る時間には、手元や掲示物にある技の一覧を確認しながら、自分の成長を捉えていきました。

その後、教師の問いかけや掲示物への注目をきっかけに、「ゴールに向けてまだできていないことを探す」という「次の問題を発見する」方法を想起し、次にやりたいことを考えていきました。中には、「まだ、めくる場所がちゃんと決まっていないからもう少しやりたい」と、自らの学びを調整している姿も見られました。

①どのわざがつかえたかな？		②つぎにやりたいことは？	
よみのわざ	ともだちのわざ	みつかったよ	みつかったよ
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	1 ② ③ ④	☹️	😊
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	① 2 ③ ④	☹️	😊

成果と課題

○これまでに見いだした問題や教師のモデルを基に、必要感のある課題を設定することができていた。「次の問題発見」の場面では、まだできていないことを探すという方法が定着しており、それぞれが次にやりたいことを考えられていた。
▲絵を「めくる」という言葉の曖昧さによって、混乱が生じていた。めくる基準についてしっかり確認した上で活動に入るとよかった。低学年ということもあり、言葉だけで考えることは難しい。もっと動作化を取り入れていきたい。